HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	キルギス語とアルタイ語の補助動詞 čïk-「出る」の対照研究
Author(s)	アクマタリエワ, ジャクシルク
Citation	北方言語研究, 12, 39-52
Issue Date	2022-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/101894
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84910
Type	departmental bulletin paper
File Information	05_Akmatalieva.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北方言語研究 12: 39-52（日本北方言語学会 2022）

キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *čïk-*「出る」の対照研究[1]

アクマタリエワ　ジャクシルク
（日本学術振興会特別研究員／新潟大学）

キーワード：チュルク諸語、キルギス語、アルタイ語、補助動詞

1. はじめに

本論では、チュルク諸語に属するキルギス語とアルタイ語を対照する。この 2 つの言語に関して、チュルク諸語の下位分類においてその分類の扱いは、大きく 3 つある。

（１）Baskakov（1960 [2009]: 220–221）の系統的分類によると、キルギス語とアルタイ語（南方言）はいずれも「キルギス・キプチャク」グループに含まれる。

（２）庄垣内（1989: 938）のチュルク諸語の方言分類によると、キルギス語とアルタイ語はいずれも「グループIII」に入っている。

（３）Johanson（1998: 82）によると、地理的分布と系統的・類型論的特徴に基づくチュルク諸語の下位分類では、キルギス語は北西（キプチャク）語群に分類され、アルタイ語は北東（シベリア）語群に分類される。

また最新の Johanson（2021: 22）の系統分類によると、“NW^{E}, an eastern subbranch, comprising Kirghiz and South Altay”として、キルギス語とアルタイ語（南）は、北西チュルク語の下位グループとしてまとめられている。

旧ソ連やキルギス、アルタイの研究者たち（Batmanov 1959, Baskakov 1960, Alïmkulova 2013, Asankanov 2021 など）には Baskakov（1960 [2009]）の分類が最も受け入れられているようである。例えば、Batmanov（1959: 90）は “вопрос о ближайшем родстве кыргызского и горно-алтайского языков в тюркологии уже решен положительно”「アルタイ語とキルギス語は最も近い関係にあるという問題はチュルク学において既に解決済みだ」と断言している。一方で、日本をはじめ世界の多くの研究者の間では、Johanson（1998）のチュルク諸語の分類が広く受け入れられている。

Tenišev（1997: 456–457）は、キルギス語の形成歴史を大きく 3 つの時代に分けている。

（1）Энисейско–монгольский период（VII–XII）　エニセイ・モンゴル時代（VII–XII）
（2）Алтайский период（VIII–XIV）　アルタイ時代（VIII–XIV）
（3）Тянь–Шанский период（XV–XVI）　天山時代（XV–XVI）

Tenišev（1997: 457）によると、(2) アルタイ時代（VIII–XIV）に、現在のアルタイ語（アルタイ語の南方言）とキルギス語に共通する特徴が形成されているという。

いずれにしても、この 2 つの言語の文法構造は比較的似ていることが予想されるが、本稿

[1] 本研究は、科研費（研究課題 18H03578、21J40129、21H04346）及び東京外国語大学 AA 研の共同研究課題「チュルク諸語における情報構造と知識管理―音韻・形態統語・意味のインターフェイス―」による成果の一部である。本稿の内容は、日本北方言語学会第 4 回大会（兼国際シンポジウム）（2021 年 11 月 6 日、オンライン開催）での発表内容に加筆、修正を加え、執筆したものである。初稿の時からコメントをくださった大﨑紀子氏に心より感謝したい。発表時にコメントをくださった方々、言語コンサルタントの方々、および本論文の匿名査読者 2 名に感謝申し上げる。

では両言語間の補助動詞 *čïk-* における相違点について特に着目する。

2. 先行研究と問題提起

チュルク諸語の多くの言語に本稿の対象である補助動詞 *čïk-*「出る」に相当する補助動詞が存在することが既に知られている。チュルク諸語について Yuldašev（1965: 81–83）、Nasilov（1978: 126）、カザフ語について Mamanov（1949: 57–58）、Muhamedowa（2016: 99–103）、アルタイ語について Tïbïkova（1966: 39–40）、Anderson（2004: 143–144）などでも *čïk-* 相当の補助動詞が取りあげられている。そして、どの言語においても、*čïk-* 相当の補助動詞は「動作の完了」を表す点で共通して述べられている。

Kudaybergenov（1987: 228）は、キルギス語の補助動詞の *čïk-* は“обозначает полную завершенность действия”「動作が完全に完了したことを表す」と述べ、次の例をあげている。

（1） *Sen ayt-kan-day, baš-tan ayak* ***köčür-üp čïk-tï-m***. Kudaybergenov（1987: 228）
君 言う-PTCP-MOD 頭-ABL 足 写す-CVB 出る-PST-1SG
「君が言ったように、最初から最後まで**写しおわった**。」

なお、キルギス語の補助動詞 *čïk-*「出る」については文法書などで上記のように記述されているのみであり、具体的な研究は非常に少ないのが現状である（Kudaybergenov 1987: 228, Ali Tan 2005 など）。

一方、アルタイ語に関して Tazranova（2017: 286–287）は補助動詞 *čïk-* について、“1) завершенность, законченность действия; и 2) фазовость действия, которая началась очень интенсивно, но еще не закончилась”「1) 完遂、動作の完了と 2）非常に早く始まったが、まだ終わっていない動作の段階性」を表すとして、次の例文をあげている。

（2） *J̌ok, saŋ örö* ***šun-up čïk-kan*** *raketa-lar de-ze-ŋ!* Tazranova（2017: 286）
いいえ 上 飛ぶ-CVB 出る-PTCP ロケット-PL 言う-COND-2SG
「いいえ、空に**飛んでいったロケットでしょう**。」

（3） *Baštapkï ǰol-dï tüžürel-e, Alan* ***terle-p čïk-tï***. Tazranova（2017: 286）
始め 道-ACC 下がる-CVB PSN 汗をかく-CVB 出る-PST
「始めの道を下りつつ、アランは**汗をかきだした**。」

また、Šencova（1997: 80）は、アルタイ語とハカス語の補助動詞 *čïk-* については、“в алтайском и хакасском форма с этим глаголом «обозначает и завершение, и начало действия»”「アルタイ語とハカス語ではこの形式の動詞は《動作の完了》も《動作の始動》も表す」と言及している。

以上をまとめると、これまでの先行研究の多くの言語において、*čïk-* は「動作の完了」を表すと共通して述べられているのに対して、アルタイ語では、*čïk-* は「動作の始動」も表すとしている。

問題提起：

果たしてキルギス語にはアルタイ語に見られるような「動作の始動」を表す文法的な意味はないのだろうかという疑問が生じる。

キルギス語とアルタイ語の類似点・相違点を具体的に明らかにするため、次の 2 点の問題提起に対して考察を行う。

（i）補助動詞 *čïk-* に先行する主動詞の意味的なタイプに違いがあるかどうか。

（ii）補助動詞 *čïk-* の文法的な意味に違いがあるかどうか。

3. 調査方法

本稿の調査では、キルギス語の新聞 Kïrgïz Tuusu（2020 年 1 月～12 月）、Ĕrkin Too（2020 年 1 月～12 月）とアルタイ語の新聞 Altaydïn Čolmanï（2021 年 1 月～7 月）の記事から *V-(I)p čïk-* の用例を抽出し、考察を行った。いずれの言語にも共通して言えることは、補助動詞 *čïk-* は *-(I)p* 副動詞形の主動詞としか共起しないことである。したがって、本稿ではこの副動詞形の主動詞に続く場合しかとりあげない。

また、アルタイ語の例文判断が難しいと思われる場合は、アルタイ語母語話者（Naeva Alevtina Ivanova 氏、1972 年生まれ、ロシア連邦アルタイ共和国在住；Čemčieva Aržana 氏、1977 年生まれ、ロシア連邦アルタイ共和国出身、現在ロシア連邦・ノヴォシビルスク州在住）に聞き取り調査を行った。

なお、本稿で引用するすべての例文の翻訳、ラテン文字転写、例文番号、グロス、文字飾り、図表は、特にことわりのない限り筆者によるものである。補助動詞 *čïk-* のグロスは AUX（補助動詞）ではなく、あえて本来の語彙的な意味「出る」と表示することにする。また、本稿ではキルギス語の例文を［キ］、アルタイ語の例文を［ア］と記す。

4. 両言語における *čïk-* の考察

まず 4.1 では両言語における動詞 *čïk-* の語彙動詞としての用法を説明し、次に 4.2.では、補助動詞としての性質について比較して考える。

4.1. 語彙動詞としての用法

語彙動詞として、*čïk-* は両言語において「外へ、または上への動き」を表す。

（4） *too-go* ***čïk-***「山に**出る（登る）**」
山-DAT 出る
［キ］Yudahin（1965: 385）

（5） *ayïl-daŋ* ***čïk-***「村から**出る**」
村-ABL 出る
［ア］Tyunteševa（2020: 87）

（6） *kün* ***čïk-tï***「太陽が**出た**」
太陽 出る-PST.3
［キ］Yudahin（1965: 385）、［ア］Čumakaev（2018: 854）

語彙動詞としての *čïk-*は、(4)「山に登る」、(5)「村から出る」のように主体がある場所から別の場所へ移るという位置変化を表す。その場合は、奪格や与格と共起して［人　場所-ABL／DAT　*čïk-*「出る」］という構文になる。また、(6) のように、以前から存在していたが隠れていた物が表に現れたという「出現」の意味を表す。この場合は、位格や与格とは共起せず［物・事　*čïk-*「出る」］という構文をとる。これらの基本的な語彙的な意味用法は両言語において共通している。

また、動詞 *čïk-*「出る」は、動詞の*-(I)p* 副動詞形に後接して「*V-(I)p čïk-*」という形式で用いられる（日本語の「動詞連用形＋動詞」に当たるものである)。この「*V-(I)p čïk-*」形式での *čïk-* は、「語彙動詞」としてのふるまいをする場合と、「補助動詞」としてのふるまいをする場合がある。この点を区別しておく必要がある。

まず、本稿で言う「語彙動詞」とは、(7) の例のように、後項動詞（V2）が前項動詞（V1）と結合後も本来の語彙的な意味を残しているものを指す。

(7)　*uč-up*　　***čïk-***
　　飛ぶ-CVB　出る
　　「飛んで**出る**」

つまり、ここでは、*čïk-* は本来の語彙的な意味「出る」を表している。

一方の「補助動詞」とは、後項動詞（V2）が前項動詞（V1）と結合したことによって、後項動詞（V2）の本来の語彙的な意味が薄れる（あるいは、なくなる）時、その後項動詞（V2）を指す。本稿の動詞 *čïk-* を例にあげて説明する。

(8)　*oku-p*　　***čïk-***
　　読む-CVB　出る
　　「読み**おえる**」

ここでは、「読んで出る」という意味ではなく、「読む」という動作が「完了する」という文法的な意味を表している。つまり、*čïk-* という動詞の本来の「出る」という意味が残っていない。

本節では、本稿で扱う「*V-(I)p čïk-*」形式の場合に現れる語彙動詞 *čïk-* について、キルギス語とアルタイ語を見ておこう。両言語で主に位置変化を表す動詞類（表 1）と物の出現を表す動詞類（表 2）とともに現れることが多く見られる。

［表 1］　位置変化を表す動詞＋čïk-

V-(I)p čïk-	キルギス語	アルタイ語
čurkap čïk-「走り出る」	○	○
učup čïk-「飛び出る」	○	○
kačïp čïk-「逃げ出る[2]」	○	○
kïdïrïp čïk-「回り出る」	○	○

(9)　*...četki　uya-dan　čïyïrčïk　**uč-up　　čïk-tï**.*　［キ］
　　外　　巣-ABL　　小鳥　　飛ぶ-CVB　出る-PST.3
「…外側の巣から小鳥が**飛び出た**。」

(10)　*Ay-ga,　Mars-ka　**uč-up　　čïk**.*　［ア］
　　月-DAT　　火星-DAT　飛ぶ-CVB　出る
「月に、火星に**飛び出なさい**。」

位置変化を表す動詞が *čïk-* に先行して現れる例がキルギス語にもアルタイ語にも見られる。キルギス語の例（9）では、起点を表す奪格名詞句、アルタイ語の例（10）では、着点を表す与格名詞句が明示的に現れる。つまり、両言語において、主体がある場所から別の場所へ移るという位置変化を表す動詞と組み合わさることができる。これらの場合、両言語において、*čïk-* は「出る」という語彙的な意味を残していると考える。

なお、キルギス語と同じくチュルク諸語北西グループに属するカザフ語の補助動詞 *šïq-*「出る」の用法についても、Muhamedowa（2016: 100）は、移動の様態を表す動詞と組み合わさる時、*šïq-* の語彙的な意味が保たれると指摘している。

［表 2］　物の出現を表す動詞＋čïk-

V-(I)p čïk-	キルギス語	アルタイ語
ösüp čïk-「生え出る」	○	○
tolup čïk-「溢れ出る」	○	○
biyiktep čïk-「そびえ（出）る」	○	○
bolup čïk-「(N に）なって出る」	○	○
tuulïp čïk-「生まれ出る」	×	○
tamïrlanïp čïk-「生え出る」	×	○
kelip čïk-「出てくる（lit. 来て出る)」	○	×

表 2 に示した前項動詞は、隠れていた人や物が表に現れるという「出現」の意味を表す自動詞である。これらが前項動詞である場合、前項動詞が位置変化を表す場合と異なり、文中に主体を表す名詞が明示的に現れることが多く、［物・事　V(自動詞)- *(I)p čïk-*］の構文をも

[2] 日本語では「逃げ出る」、「回り出る」のような言い方が不自然になるが、ここでは原文に近い訳を示す。

つ。

（11） *J̌er-din nïm-ï-nan, suu-nun küč-ü-nön ulam*
土-GEN 湿気-POSS.3-ABL 水-GEN 力-POSS.3-ABL 次第に
ürön köyköl-üp ***ös-üp čïk-tï***. ［キ］
種 溢れる-CVB 伸びる-CVB 出る-PST.3
「土の湿気から、水の強さから、次第に種が溢れるように**伸び出た**（**生えてきた**）。」

（12） *boroŋot bir de čaldïk-pa-y türgen* ***öz-üp čïk-tï***. ［ア］
黒すぐり 一 も 枯れる-NEG-CVB 早く 伸びる-CVB 出る-PST.3
「黒すぐりは一回も枯れないで早く**伸び出た**（**生えてきた**）。」

ただし、キルギス語とアルタイ語の「物の出現」を表す前項動詞と *čïk-* の組み合わせの可否に相違点が見られる。例えば、*tuul-*「生まれる」、*tamïrlan-*「根ざす」という動詞は、どちらの言語にも存在する。しかし、これらの動詞は、アルタイ語では、*čïk-* とは共起できるものの、キルギス語では、*čïk-* とは共起できない（［表 2］では×で示した）という点が興味深いところである。

（13） *kiži ak-ǰarïk-ka* ***tuul-ïp čïg-ar-da***, ［ア］
人 この世-DAT 生まれる-CVB 出る-AOR-LOC
「人がこの世に**生まれ出た時に**。」

（14） ***Tamïrlan-ïp čïk-kan*** *Kün- ěne Altayïs-tï ǰarïd-ïp tur-zïn.* ［ア］
根ざす-CVB 出る-PCTP 太陽-母 アルタイ-ACC 照らす-CVB 立つ-OPT.3
「**根ざし出た**太陽母がアルタイを照らしてくれるように。」

また、キルギス語では、*kel-*「来る」が前項動詞になり、「物事が現れる」という意味でつかわれることはあるが、アルタイ語では、*kel-*「来る」と *čïk-* は組み合わさらないようだ（［表 2］では×で示した）。

（15） *Natïyǰa-da ǰalgan ětimologiya* ***kel-ip čïk-kan***. ［キ］
結果-LOC 嘘 語源 来る-CVB 出る-PST.3
「結果的に嘘の語源が**出てきた**。」

（16） *Etimologiya Azia-da* ***tuul-ïp čïk-kan***. ［ア］（コンサルタントによる作例）
語源 アジア-LOC 生まれる-CVB 出る-PST.3
「この語源はアジアで**生まれ出た**。」

4.2. 補助動詞としての用法

本節では、キルギス語とアルタイ語の *V-(I)p čïk-* の用例に現れる主動詞（*V*）を、①生理現象を表す動詞類、②言語活動動作を表す動詞類、③持続過程を持つ動詞類、④姿勢変化を表す動詞類の、4 つの意味的なタイプ（語彙的な意味）に分類し、それぞれの場合の補助動詞 *čïk-* の文法的な意味について考察を行う。

① 生理現象を表す動詞の場合

キルギス語にもアルタイ語にも「生理現象を表す動詞」に *čïk-* が後続する場合が見られる。

［表 3］ 生理現象を表す動詞類

主動詞	キルギス語	アルタイ語
terde- / terle-「汗をかく」	○	○
ïsï-「温まる」	○	○
kïzar-「赤くなる」	○	○
kayna-「沸く」	○	○
sargar-「黄色くなる」	○	○

生理現象を表す動詞が *čïk-* と結びつく場合、ある現象や状態の生起、すなわち、ある現象・状態が知覚でとらえられるように現れること、つまり、状態の「生起」を表す。両言語に共通して見られるのは、主に主体の身体的な変化（*ïsï-*「（体が）温まる」、*kïzar-*「（顔が）赤くなる」）と物事の変化（*kayna-*「（水・気持ちが）沸く」、*tütö-*「（煙・気分が）煙る」）を表す主動詞が多いのが特徴的である。

（17） *Toktosun-dun öŋ-ü* ***kubar-ïp*** ***čïk-tï***. ［キ］
PSN-GEN 顔色-POSS.3 青ざめる-CVB 出る-PST.3
「トクトスンの顔色が**青ざめだした**。」

（18） *Aarï čak-kan köz-üm bir zamat-ta bultuy-up* ***šïši-p*** ***čïk-tï***. ［キ］
蜂 刺す-PTCP 目-POSS.1SG 一 時-LOC 膨らむ-CVB 膨れる-CVB 出る-PST
「蜂が刺した私の目があっという間に大きく**膨れだした**。」

Tazranova（2017: 286）は、このタイプの動詞に *čïk-* が結びつく場合、「非常に早く始まったが、まだ終わっていない動作の段階性」を表すとしている。

（19） *Baštapkï ǰol-dï tüžürel-e, Alan* ***terle-p*** ***čïk-tï***. ［ア］ Tazranova（2017: 286）
始め 道-ACC 下がる-CVB PSN 汗をかく-CVB 出る-PST.3
「始めの道を下りつつ、アランは**汗をかきだした**。」（＝（3））

Tazranova（2017: 286）が指摘しているように、確かにこの文では、「汗をかきだして、まだ汗をかきおわっていない」ということが表されている。正確に言えば、「汗をかく」というのは自分でコントロールできる「動作」ではなく、自然に現れる「生理現象」であろう。そして、*čïk-* がつくことにより、その生理現象の「生起（始動）」を表すと考えられる。これはキルギス語にもアルタイ語にも共通して見られる補助動詞 *čïk-* の文法的な意味である。

② 言語活動動作を表す動詞の場合

両言語において主体が対象を外部や表面に動かし出した（動かしはじめた）という意味を表す文が見られた。これらの文の主動詞の意味的なタイプに注目してみると、いずれの言語でも次のように主体の「言語活動動作を表す動詞」に限ることがほとんどである。

［表 4］ 言語活動動作を表す動詞類

主動詞	キルギス語	アルタイ語
ayt-「話す」	○	○
de-「言う」	○	○
ür-「吠える」	○	○
ïrda-「歌う」	○	○
käykïr-「叫ぶ」	○	○

これらの場合、補助動詞 *čïk-* は「動作の完了」とは言い難く、むしろ、「動作の始動」を表していると考えられる。

（20） *kanča salïk tölö-gön-ü-n* ***ǰaz-ïp*** ***čïk-tï***. ［キ］
いくら 税金 払う-PTCP-POSS.3-ACC 書く-CVB 出る-PST.3
「いくら税金を払ったかを**書きだした（はじめた）**。」

（21） *At-tïŋ tibirt-i ug-ul-ar-da,*
馬-GEN 足音-POSS.3 聞く-PASS-AOR-LOC
sarï taygïl ***ür-üp*** ***čïk-tï***. ［ア］ Tazranova（2017: 248）
黄色い 犬 吠える-CVB 出る-PST.3
「馬の足音が聞こえた時に、黄色い犬が**吠えだした（はじめた）**。」

③ 持続過程を持つ動詞の場合

このタイプに入る動詞群をみてみると、ある物や事に対する働きかけを最初から最後まで成し遂げられるような持続過程を持つ動作動詞が多いことが分かる。

［表 5］ 持続過程を持つ動詞類

主動詞	キルギス語
oku-「読む」	○
jasa-「作る」	○
izde-「探す」	○
jeŋ-「勝利する」	○
ĕsepte-「計算する」	○
※ *jaa-*「降る」	○

主動詞	アルタイ語
kičïr-「読む」	○
belete-「作る」	○
bedire-「探す」	○
jeŋ-「勝利する」	○
ĕmden-「治療する」	○
※ *jaa-*「降る」	○

※自然現象を表すが、持続過程を持つ動詞類に仮に入れておく。

改めて、次の例文をみてみよう。

（22） *Eŋ murun ič-im-den bir sïyra kübürö-p* ***oku-p*** ***čïk-tï-m***. ［キ］
一番 先に 腹-POSS.1SG-ABL 一 巻 音読する-CVB 読む-CVB 出る-PST-1SG
「まず、最初に自分で一冊全部音読して**読みきった**。**(最初から最後まで読んだ)**。」

（23） *“Altay-dïn jaz-ï” de-p ada-l-gan bir tizü kuučïn-dar-ï*
アルタイ-GEN 春-POSS.3 言う-CVB 呼ぶ-PASS-PTCP 一 連載 小説-PL-POSS.3
fransuz til-ge ***köčür-ül-ip*** ***čïk-kan***. ［ア］
フランス語-DAT 訳す-PASS-CVB 出る-PST.3
「彼の「アルタイの春」と名付けられた一編の連載小説がフランス語に**翻訳された**。」

（22）の *oku-p čïk-*「読む」は、単に「読む」のではなく、「最初から最後まで隅々まで読む」という過程を含意している。アルタイ語の（23）*köčür-ül-ip čïk-* にも「最初から最後まで訳しおわった」という意味が含まれる。

（24） *Kaspiy deŋiz-i-nin ar kanday ĕl-der tarabïnan koy-ul-gan*
カスピ 海-POSS.3-GEN 様々な 人-PL によって 置く-PASS-PTCP
70 čamaluu at-ï bol-gondug-u-n ***ĕsepte-p*** ***čïk-kan***. ［キ］
70 約 名-POSS.3 なる-PTCP-POSS.3-ACC 計算する-CVB 出る-PTS.3
「カスピ海の様々な民族から名付けられた 70 個以上の名があることを**数えあげた**。」

（25） *Tergee-niŋ baščï-zï ĕl-deŋ le ozo*
地域-GEN 指導者-POSS.3 国民-GEN EMPH 最初
koronavirus-tï ***jeŋ-ip*** ***čïg-ar*** *kerek de-gen.* ［ア］
コロナウイルス-ACC 勝つ-CVB 出る-AOR 必要 言う-PTCP
「地域の指導者は、国民の最初にコロナウイルスを**勝ちきる**必要があると言った。」

上のキルギス語の例（24）*ěseptep čïk-*「計算する」の場合、単なる「計算する」という意味ではなく、「色々な民族が名付けた名を集め、調べ、全てを計算しおわった」という動作の過程とその完了を表している。アルタイ語の例（25）の場合も、*jeŋ-*「勝つ」という動詞は、単なる「勝つ」という意味ではなく、「コロナウイルスと戦って勝ちきる」という「勝つまで過程とその完了」の意味が含まれている。

このように、このタイプに入る *jeŋ-*「勝利する」、*darïlan-*「治療する」、或いは、*ěsepte-*「計算する」などの動詞は *čïk-* と組み合わさる時、主体はある事・物を一回だけ「勝つ」或いは「治療する」のではなく、「一生懸命努力して勝ち取る」或いは、「これまで治療を続けていて、治療を終える」という「その動作の過程とその完了（完遂）」を表すような意味になる。

補助動詞 *čïk-* が「動作の完了」を表すことは、チュルク語の多くの先行研究で（Mamanov（1949: 57–58）、Yuldašev（1965: 81–83）、Tïbïkova（1966: 39–40）、Nasilov（1978: 126）、Hahn（1998: 390）、Boeschoten（1998: 365）、Anderson（2004: 143–144）、Muhamedowa（2016: 99–103）、Tyunteševa（2020）等）すでに指摘されているが、キルギス語とアルタイ語においても「動作の完了」を表すことが再確認できた。

副詞相当句の特徴

補助動詞 *čïk-* が「動作の完了」を表す場合、文中に現れる副詞相当句に注目しておきたい。*tünü boyu*「夜中ずっと」、*üč kün boyu*「三日間ずっと」、*baštan-ayak*「最初から最後まで」、*kečke*「ずっと」などのようにその動作が持続した全期間を示すような副詞相当句が共起して現れることが特徴的である。これはキルギス語だけではなく、アルタイ語でも類似する用例が見られる。

（26）*Tündi* ***oorï-p*** ***čïk-tï-m***. ［ア］　（コンサルタントによる作例）
夜中　痛む-CVB　出る-PST-1SG
「私は夜中ずっと**痛かった**。」

（27）*Tünü boyu jaan* ***jaa-p*** ***čïk-tï***. ［キ］
夜中ずっと　雨　降る-CVB　出る-PST.3
「夜中ずっと雨が**降っていた（ずっと降っていて今は降りおわった）**。」

なお、キルギス語の場合も、アルタイ語の場合も、自然現象を表す動詞 *jaa-*「降る」（27）の場合、*tünü boyu*「夜中ずっと」のような副詞相当句が共起して使用される。仮に副詞相当句を削除して、（28）のように言い換えてみると、非文になる。この文だけでは「雨が降りおわった」という「動作の完了」を表す意味にもならない。

（28）**jaan* ***jaa-p*** ***čïk-tï***.

つまり、副詞相当句なしでは、意味が通じなくなる。自然現象を表す動詞 *jaa-*「降る」に

補助動詞 *čïk-* が後続すると、副詞相当句との共起が不可欠な文法的な条件となる。

④ 姿勢変化を表す動詞の場合

アルタイ語の新聞データからは、補助動詞 *čïk-* が姿勢変化を表す動詞 *tur-*「立つ」と組み合わさる次のような用例が見られた。一方、キルギス語の新聞データからは補助動詞 *čïk-* が「姿勢変化を表す動詞」と共起する用例は 1 例も出てこなかった。

［表 6］ 姿勢変化を表す動詞類

主動詞	キルギス語	アルタイ語
tur-「立つ」	×	○

(29) *araayïnaŋ tïŋdalan-ïp otur-gan Ayu* ***tur-up čïk-tï.*** ［ア］
ゆっくり 生き返る-CVB 座る-PTCP 熊 立つ-CVB 出る-PST.3
「ゆっくりと生き返っていた熊が**（素早く）立った**。」

(30) *Bayram ökpöör-gön-i-ne* ***tur-up čïk-tï.*** ［ア］
PSN 興奮する-PTCP-POSS.3-DAT 立つ-CVB 出る-PST.3
「バイラムは興奮して**（素早く）立った**。」

(29) の場合、「熊が立って出た」ではなく、「熊が素早く立った」という意味になり、(30) の場合、「興奮して素早く立ちあがった」という意味になるようだ（コンサルタントによる）。つまり、いずれの文においても「立つ」という動作が主である。Tazranova（2017: 286–287）は、補助動詞 *čïk-* は姿勢変化を表す動詞 *tur-*「立つ」と組み合わさる時に、「動作の素早さ」を表すと言及している。

キルギス語の場合、姿勢変化を表す動詞 *tur-* に *čïk-* が後続して現れることがほとんどない。アルタイ語の場合に現れる補助動詞 *čïk-* の「動作の素早さ」という文法的な意味は周辺言語との接触によるものなのか、或いは、アルタイ語特有の特徴なのか、現時点では明らかなことは言えず、今後の課題として残る。

5. おわりに

以上、キルギス語とアルタイ語の *čïk-* を中心に考察を行い、両言語の対照を行った。考察の結果、両言語間には以下のような類似点・相違点が存在することが確認できた。

（1）両言語において「生理現象を表す動詞」に *čïk-* が後続する場合、その *čïk-* が生理現象及び状態の「生起」を表す。

（2）両言語において「言語活動動作を表す動詞」に *čïk-* が後続する場合、*čïk-* は「動作の始動」の意味を表す。アルタイ語の先行研究では「動作の始動」を表すと述べられていたが、キルギス語にも同様の文法的な意味が存在する。

（3）先行研究ですでに指摘されてきた「動作の完了」を表すことが両言語において再確認できた。ただし、「動作の完了」を表す場合、両言語の主動詞の意味的なタイプに注目して

みると、ある物や事に対する働きかけに持続的な過程をもつ動作動詞が多いことが分かった。

（4）キルギス語とアルタイ語の補助動詞 *čïk-* の文法的な意味の大きな相違点として、主体の姿勢変化を表す動詞 *tur-* に *čïk-* が後続する場合、アルタイ語では「動作の素早さ」が現れるが、キルギス語にはその用法がない。

キルギス語とアルタイ語は、文法構造に比較的類似している点が多く、一見同じように見える。しかし、よく観察してみると、補助動詞 *čïk-* の異なる文法的な意味（例えば、動作の素早さ）も存在することが明らかになった。

補助動詞は、チュルク諸語のどの言語にも存在し非常に発達している。そのため、外見から、類似していると思いがちではあるが、各言語にその言語ならではの特徴が存在する。

キルギス語とアルタイ語の場合、隣接する他の言語との接触が深く関わっていると思われる。キルギス語の場合は、中央アジア周辺の諸言語との接触による影響が予想される。一方、アルタイ語の場合は、ショル語やトゥバ語など北東グループ諸言語との接触による影響が大きく関わってくる。今後、このような言語接触の部分にも注目して、さらに研究を深めていきたい。

略号

ABL 奪格, ACC 対格, AOR アオリスト, CVB 副動詞, COND 条件, DAT 与格, EMPH 強調, GEN 属格, LOC 位格, MOD モダリティ, NEG 否定, OPT 希求, PASS 受身, PL 複数, POSS 所有接尾辞, PST 過去, PTCP 分詞（形動詞）, SG 単数, 1 1人称, 2 2人称, 3 3人称

参考文献

Ali, Tan. (2005) *Kırgız türkçesinde tasvir filleri*. Doktora tezi, ADANA.

Alïmkulova, Sïnaru Kadïrovna. (2013) *Kïrgïzko–altayskiye – ětnokul'turnïe svyazi (po dannïm fol'klora)*. Biškek.

Anderson, Gregory D.S. (2004) *Auxiliary verb constructions in Altai–Sayan Turkic*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.

Asankanov, Ablabek Asankanovič. (2021) *Istoriko–kul'turnaya obščnost' narodov Sayano–Altaya i Central'noy Azii*. (in press)

Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1958) *Altayskiy yazïk*. Moscow: Nauka.

Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1960 [2009]) *Tyurkskiye yazïki*. Moscow: Nauka.

Baskakov, Nikolay Aleksandrovič. (1966) *Tyurskiye yazïki,Yazïki narodov SSSR*. Tom 2, 506–524. Moscow: Nauka.

Batmanov, Igor' Alekseevič. (1959) Nekotorïe lingvističeskiye dannïe k ětnogenezu kïrgïzskogo naroda. *Trudï kirgizskoy arheologo–ětnografičeskoy ěkspedicii*. Frunze.

Boeschoten, Hendrik. (1998) Uzbek. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 357–365. London, New York: Routledge.

Hahn, Reinhard F. (1998) Uyghur. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 379–396. London, New York: Routledge.

Čumakaev, Aleksey Eduardovič. (eds.) (2018) *Altaysko–russkiy slovar'*, Gorno–Altaysk.

Johanson, Lars. (1998) The History of Turkic. In Lars Johanson and Éva Ágnes Csató (eds.), *The Turkic Languages*. 81–125. London, New York: Routledge.

Johanson, Lars. (2021) *Turkic (Cambridge Language Surveys)*. Cambridge University Press.

Kudaybergenov, Sarïbay. (1987) Kategoriya zaloga. In Zaxarova, O.V. (ed.), *Grammatika kirgizskogo literaturnogo yazïka 1: Fonetika i morfologiya*, 238–253. Frunze: Ilim.

Mamanov, Ibraim Esenkulovič. (1949) *Vspomogatel'nïe glagolï v kazahskom yazïke*. Alma–Ata.

Muhamedowa, Raihan. (2016) *Kazakh: a comprehensive grammar*. London.Oxon: Routledge.

Nasilov, Dmitriy Mihaylovič. (1978) Formï vïraǰeniya sposobov glagol'nogo deystviya v altayskih yazïkah. *Očerki sravnitel'noy morfologii altayskih yazïkov*. 88–178. Nauka, Leningrad.

Šencova, Irina Vital'evna. (1997) *Akcional'nïe formï glagola v šorskom yazïke*. 80–81. Kuzbassvuzizdat, Kemerovo.

Tazranova, Alyona Robertovna. (2017) Vspomogatel'nïe glagolï. In Nevskaya, I. A. et al. (eds.). *Grammatika sovremennogo altayskogo yazïka. Morfologiya*. 202–289. Gorno–Altaysk.

Tenišev, Edgem Rahimovič. (1997) *Yazïki mira. Tyurkskiye yazïki*. Biškek.

Tyunteševa, Elena Valer'evna. (eds.) (2020) *Vtoričnïe značeniya glagola čïk=～cïx= "vïhodit' " v tyurkskih yazïkah Yužnoy Sibiri i kïpčakskih yazïkah*. Russian Federation, Languages and Folklore of Indigenous Peoples of Siberia. N1.(iss39) 85‑99. Intitute of Philology of the Siberian Branch of the Russian Academy of Sciences, Novosibirsk.

Tïbïkova, Aleksandra Taybanovna. (1966) *Složnïe glagolï v altayskom yazïke*. Gorno–Altaysk.

Yudahin, Konstantin Kuz'mič. (1965) *Kirgizsko–Russkiy slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo Sovetskaya enciklopediya.

Yuldašev, Ahnef Ahmetovič. (1965) *Analitičeskiye formï glagola v tyurkskih yazïkah*. Moscow.

庄垣内正弘 (1989)「チュルク諸語」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『言語学大辞典 第 2 巻』937‑950. 東京: 三省堂.

A Contrastive Study of the Auxiliary Verb *čïk*- in Kyrgyz and Altai

Jakshylyk AKMATALIEVA
(JSPS / Niigata University)

Keywords: Turkic, Kyrgyz, Altai, auxiliary verbs

This paper discusses the grammatical meaning of the auxiliary verb *čïk*- 'to go out' in Kyrgyz and Altai, which belong to the North-Western and North-Eastern groups of the Turkic languages, respectively.

As several previous studies (Mamanov (1949: 57–58), Yuldašev (1965: 81–83), Tïbïkova (1966: 39–40), Nasilov (1978:126), Hahn (1998: 390), Boeschoten (1998: 365), Anderson (2004: 143–144), Muhamedowa (2016: 99–103)) have described, *čïk*- is commonly employed to denote the "completion of an action," whereas in languages such as Altai (Tazranova (2017: 248), Tyunteševa (2020)), *čïk*- signify the "starting of an action."

This study identified the following similarities and differences between the two languages.

(1) In both languages, when a verb expressing a physiological phenomenon is followed by *čïk*-, the *čïk*- expresses the "occurrence" of the physiological phenomenon or condition.
(2) In both languages, when *čïk*- follows a verb expressing a verbal action, the *čïk*- expresses the meaning of "starting the action."
(3) In both languages, it was confirmed that the phrase is used in the sense "completion of an action," corroborating previous studies. However, examination of the semantic types of the main verbs in both languages shows that most of them are verbs for actions that can be exerted on a certain object or thing from a beginning to an end.
(4) A major difference in the grammatical meaning of the auxiliary verb *čïk*- between Kyrgyz and Altai is that when *čïk*- follows the verb *tur*-, which expresses a change of posture of the subject, "quickness of action" appears in Altai, but not in Kyrgyz.

The grammatical structures of Kyrgyz and Altai are similar in many respects, and at first glance they appear to be the same. However, a closer look reveals a difference in grammatical meaning (quickness of action) of the auxiliary verb *čïk*-.

（アクマタリエワ・ジャクシルク　ajbukarbekovna@gmail.com）